

---

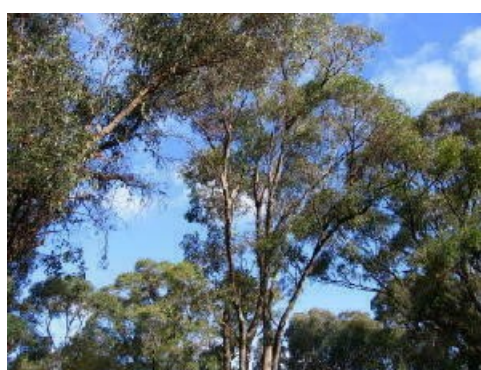
## ワイルドフラワー～パース旅行2008

### 1、キングスパーク

ワイルドフラワー。日本語に訳すと「野生の花」・・・日本で言うところのタンポポとかスミレみたいなものですが、今回のパース旅行の目的は、毎年9月に開催されるキングスパーク・フェスティバルでワイルドフラワーを見学することで、平たく言えば、お花見ですね。



この時期の西オーストラリアは春。色とりどりの花が街角を春色に染めます。パースの高台キングスパークは花盛りです。



オーストラリアを代表する動物はカンガルー。後ろ足でピョンピョン飛んで子供をお腹の袋で育てます。植物でも「カンガルーの前足」を意味する“Kangaroo Paw(カンガルーポオ)”という名前の花が、キングスパークの至るところに咲いています。赤・黒・緑と色とりどりですが、いずれもパースへの手招きをしてくれているみたいな姿です。



続いての植物は“Banksia(バンクシア)”日本で言う「ガマの穂」みたいな形の花で、茶色っぽい色が主流ですが、花が地面から直接生えてきて、それが茎や葉に育つものや、下向きの花に上向きの花。植物学的に類型化されていないのか、タワシサイズの花は、この名前に分類されるというオーストラリアの固有種です。ものの本で調べると、この花は多くの蜜をもたらし、小鳥や昆虫の食生活の糧となる重要な植物だそうです、ドライフラワーにしたタワシと表現するのが最適かも知れません。

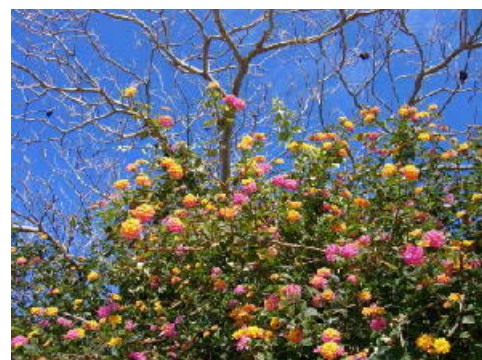


あと同じ様な形の花で“Bottlebrush(ボトルブラシ)”とか“Honeymyrtle(ハニーマーテル)”なんて名前のもが、赤やオレンジの色で街角を染めています。

“なんとかLily”“何々Orchid”“なにそれDaisy”みたいな感じで、ユリとか蘭や菊に似た美しい花が、この季節のパースを色鮮やかに飾ります。



今回は、世界で一番美しい街の一番美しい季節をリアルタイムで体感してきました。



## 2、ロットネスト島

世界でここにしか生息しない小型のカンガルー・クオッカ。2年前もここを訪問し、一泊して南十字星とクオッカ観察の夜を過ごしたのですが、今回は子育てシーズンのクオッカと戯れるために、前回と同じロットネストロッジに宿泊です。



今度は天候に恵まれず、海で泳いだり、流れ星を探したりできなかったのですが、親子のクオッカの写真ばかり撮影してきました。高さ30cm程度のお母さんクオッカのお腹の袋から顔だけ出す子クオッカ。袋から出てきたら高さ10cm程度のネズミサイズでありながら、ピョンピョン飛びます。



有袋類の子供(Joeyと呼ばれますが)は、メダカサイズで生まれて、自力で母親の袋の中に入って、袋の中に隠れている乳首から母乳を飲んで、袋の中で育ち、袋に入れられないサイズになった時点で親から独立するのですが、9月のこの時期のクオッカは、独立寸前で、袋から出たり入ったりで親と一緒に社会勉強をする頃で「ガーデンレイクのほとりで公園デビュー」という感じで、時間の許す限りそんなシーンを静かに眺めていました。



### 3、パースタウン

世界で一番美しい街・パースは、お代官様個人としても、世界で一番好きな街です。訪問するのも今回が4回目で、毎回欠かさずしていることは、ロンドンコートでラグビージャージを買うことと、バラ

ックストリート棧橋からスワン川を渡ってパース動物園を訪問することです。



ロンドンコートでは、今回はスーパー14よりウエスタンフォースのブルーのジャージと、ブランビーズのセカンドジャージを購入したのですが、店の主人が親しげに“Coming back again? I remember you.(帰ってきたのかい？覚えてるよ。)”なんて、セールストークか本当かわかりませんが、言ってくれと、なんとなく嬉しくなりますね。



確かに体型的に日本ではLサイズを着用するのにオージーではSサイズが似合うとか、ウエールズでワールドカップを見てきたなんて話を身振り手振りでした覚えがあるのですが、今年は、たまたま世界一のスクラムハーフ・ワラビーズの前のキャプテンでもある、ジョージ・グレーガンの写真入りの本のチラシが置いてあったので、現在日本のトップリーグのサントリー所属だと自慢しようとしたら、本日(2008年9月10日)現在パースに来ているらしく、しかもそのチラシは今日の書籍店頭販売サイン会の案内だったという偶然で、思わず書店に走ってミーハーして、一緒に写真にまで収まってしまいました。

世界一のスクラムハーフの手は柔らかく、小さな顔で優しく微笑んでくれました。けど、先週のトップリーグ開幕戦では、秩父宮で三洋電機相手に戦っていたのではなかったのでしょうか？

てな理由で、今年は、日本のトップリーグは、ジョージ・グレーガンが移籍してきたサントリーを応援することにしました。



パース動物園は、改修工事が盛んで、売り物の爬虫類館が改装中で、可愛い顔したトカゲに会えないし、放し飼いのカンガルーが減って、コアラも元気がないというマイナス面ばかりが目立つ状況でしたが、ここに来る最大の動機の一つでもあるナンバット(フクロアリクイ)という世界中でこの動物園でしか飼育されていない絶滅危惧種の動物を見ることが、あきらめていたのですが、いつも空振りに終わるナンバットの扉を開けると、な・な・なんと、夢にまで見たナンバットが木の上を歩いている。



テレビや写真でしか見たことのない縞模様の背中と細長い舌でチョロチョロ動く姿が眼前にある。ほとんど永久的なテーマになるかと思っていたレアな有袋類を見て茫然自失、サティスファイな気分です、動く姿を目に焼きつけました。なお、このナンバットは、世界中でもパース付近にしか生息せず、自然界では他の動物や鳥、爬虫類からも狙われる弱い動物で、絶滅に向かってまっしぐらの状況だそうです。現在、パース動物園が、飼育し交配させて生まれた個体を自然界に返すという活動によって、種の維持を保つ努力を続けているそうです。



#### 4、ロッキングハム

今回のもう一つの呼び物は、野生のイルカやアザラシを観察するロッキングハムツアー。インターネットを駆使して日本から予約を入れて、苦勞してクレジットカードでの支払いに漕ぎつけた努力のたまもの。

当日は、天候不良で中止・・・って、今までの苦労は、報われず。しかもキャンセルの返金手続きまで発生してくるじゃありませんか？ブッキング事務所に電話して下さいなんてメッセージが残されていましたが、誰が英語で交渉するんや・・・

しかし、今回の旅の全体はJTBで予約。シェラトンホテルのJTBデスクに駆け込んで無事手続きを解決していただきました。ホント、旅行会社は選ばなきゃいけませんね。

さてさて、次はどこを歩きましょう？

ナンバットに出会えてテーマを失くしたお代官様としては、今度こそはロッキングハム？そして、ブッキングオフィスに直接電話して、英語で自己主張、交渉できるようになることが、次のテーマかも？

不思議の国オーストラリア・・・次の訪問は、いつになるのでしょうか？



Top  
[トップ](#)  
[↑](#)

Back  
[戻る](#)